

日本の個人株式投資家の特性を考える

福田 徹（日本証券経済研究所主任研究員）

日本の個人株式投資家は、短期売買を繰り返す投機的なスタンスを好むと言われているが、実際のところはどうなのだろうか。当報告では、各種データを利用したファクト・ファインディングスを通じて、日本の個人株式投資家の特性を明らかにする。まず、国内の他の売買主体、海外の個人株式投資家の行動パターンと比較することで、計量的な観点に基づく日本の個人株式投資家の傾向を把握する。次に、アンケート調査を用いて、国内外の個人投資家がイメージする「株式」についての相違点を論じる。さらに、日本証券業協会の協会長による諮問の研究会「個人投資家を考える研究会」が昨年末に行ったグループ・ミーティングから得られた発言の内容を紹介する。これを吟味することで、個人投資家が株式を購入する際のスタンスについての議論を一層深めたい。

加えて、日本証券業協会、ネット証券評議会などから最近になってデータが発表されるようになったネット投資家（インターネットを利用して売買を行う個人株式投資家）の動向についても、いくつかの分析を加える。それらによって、ネット投資家の特性の一端を窺うことが可能となるだろう。